

# 平成28年度の管理運営状況（東京辰巳国際水泳場）

指定管理者:オーエンス・セントラル・都水協・事業団グループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等
状況管理	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	28年度、設備職員9名を配置し手厚い体制で業務を行っている。また老朽化に伴う各種修繕として「圧力容器」、「熱供給ライン」、「ダイビングプールろ過配管」等、基幹部分の修繕を積極的に行った。64件 総額約17,200千円。
		プール施設の管理	中央監視システムにより適宜、室温、水温、遊離残留塩素濃度が保持されているか水質チェックを行っている。また、ライフガード部門では毎時、水温、PH値、遊離残留塩素濃度の水質検査を実施。水質検査のダブルチェック等により水質の保持に努めており、利用者から透明度が高い等、高い評価を受けている。
		人材育成の取組み	コンプライアンスや普通救命講習等のほか、改めて全職員を対象に研修専門機関から講師を迎えて接遇研修を行った。また、都の所管課に講師派遣を依頼して個人情報保護研修を行い、個人情報保護に向けた取組の強化を図った。
		施設の提供について	(1) 日本水泳連盟等と緊密な連携を図り、時間外使用や柔軟な施設利用等を承認し、大会関係者からは施設が使い易い、大会運営がやり易いとの評価を受けている。「日本選手権競泳競技」では、連盟の要望を受け、ダイビングプールへの仮設スタンドの設置について夜間対応の協力を行った。 (2) 24年度「指定管理者管理運営状況評価」で、「今後取り組むべき点」とされた「地域の学校等との連携により、中高生を含む学生大会の誘致や新規利用者の開拓に努めていただきたい」との要望に答え、江東区教育委員会と共に引き続き「江東区立中学校連合夏季大会第70回水泳大会」を開催した。また、当水泳場では初となる「江東区民体育大会水泳大会」の開催に協力した。
	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	(1) 防災訓練は消防計画に基づく自衛消防訓練を年2回(5月、11月)実施した。また、毎年、自衛消防隊が深川消防署主催の「自衛消防技術審査会」に参加し、防火管理業務の技術の向上を図っている。 (2) レストラン経営者と協定を結び、一時滞在施設として帰宅困難者に対する清涼飲料水(お茶、紅茶、ジュース等約3000本)の確保を独自に行っている。
事業効果	利用の状況	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人利用者数 28年度の利用者数は40,458人、27年度と比較して176名増となった。これは18年度指定管理者制度導入以降、最も多い利用者数である。「元旦初泳ぎ」「ポイントカードサービス」「映像によるワンポイントアドバイス」「映像によるスタートレッスン」「スイムチャレンジ記録会」、「飛込(板飛び/高飛び)撮影サービス」等のきめ細かな利用者サービスを無料で提供してきたこと等によるものと思える。</li> <li>団体利用稼働率 (1) プールの使用率は、メインプール95.2%(27年度95.3%)、サブプール91.7%(同91.6%)、ダイビングプール64.2%(同54.6%)であり、サブ、ダイビングプールは昨年度を上回った。28年度は「日本選手権競泳競技」「ジャパンオープン2016」「全国JOCジュニアオリンピックカップ(夏季・春季)」「FINA/競泳ワールドカップ2016 東京大会」の開催と、4年振りに「日本学生選手権水泳競技大会」、アジア地域においておよそ4年に1回開催される国際大会の「アジア選手権水泳大会」を誘致した。 (2) 28年度年間利用者数は511,899人となり、18年度指定管理者制度導入以降、最多となった。引き続き休館日の削減に努めたこと等、利用団体の利便性向上を図ったことによるものと思われる。</li> </ul>
		スポーツ振興事業の実施状況	28年度は事業計画に基づき13事業を実施した。27年度と比べ参加率が概ね向上した。「東京辰巳国際水泳場杯(競泳・フィン競技)」は、開館以来、24回連続開催となり、誰でもが参加できる大会として定着。参加者は延べ3,436人で、多くの方々に楽しんでいただいた。
	事業の取組	自主事業の実施状況	「こども水泳スクール」などが好評を得て、年間累計参加実会員数が27年度に比べ623名増加となった。(28年度実績 11,250名)
		サービス向上に向けた取組み	(1) 元旦初泳ぎはスイマーに定着し、28年度は1,614人(27年度1,407人)の利用者に楽しんでいただいた。 (2) 無料シャトルバスの運行ルートについて、利用者からの要望を受け、平成28年7月1日より「潮見・有明線ルート」を新設し、混雑の緩和及び利便性の向上を図った。 (3) 冬期、正面入口周辺にイルミネーションを設置・点灯し、利用環境の向上を図った。 (4) 外国人向けに「外国語版パンフレット」(4カ国語)を作成し、主に視察・見学者に配付している。
		利用者ニーズの把握	(1) 利用者懇談会や意見箱によるもののほか、利用者満足度調査を実施。前年度と評価手法が異なるため単純比較はできないが、総合満足度は「満足」「やや満足」の合計が個人・団体等いずれも9割以上となり、高い満足度を示している。 (2) 苦情や要望は、意見箱への投書となって現れることが多いので、当館ではそれぞれについて、その内容と当館の見解・対応をまとめ、誰でも閲覧できるよう、公開している。